

■日本小児神経外科学会役員選挙について

一般社団法人日本小児神経外科学会第4期理事の立候補者を公示します。

2023年2月10日

一般社団法人日本小児神経外科学会

理事長 伊達 勲

総務委員会担当理事 栗原 淳

【信任希望理事候補】(7名 五十音順)

赤井 卓也	富山大学医学部脳神経外科
栗原 淳	埼玉県立小児医療センター脳神経外科
五味 玲	自治医科大学とちぎ子ども医療センター
下川 尚子	久留米大学脳神経外科
埜中 正博	関西医科大学脳神経外科
朴 永鉄	奈良県立医科大学脳神経外科
山本 哲哉	横浜市立大学脳神経外科

【新任理事候補】(8名 立候補届出順)

隈部 俊宏	北里大学脳神経外科
林 俊哲	宮城県立こども病院脳神経外科
加藤美穂子	あいち小児保健医療総合センター脳神経外科
吉藤 和久	北海道立子ども総合医療・療育センター脳神経外科
河村 淳史	兵庫県立こども病院 脳神経外科
荻原 英樹	国立成育医療研究センター脳神経外科
井原 哲	東京都立小児総合医療センター脳神経外科
西山 健一	新潟県厚生農業協同組合連合会 新潟医療センター脳神経外科

※次ページより新任立候補者の抱負を掲載いたします。(立候補届出順)

※年齢は2023年4月1日現在

氏名 隈部 俊宏	所属 北里大学脳神経外科	61 歳
<p>抱負</p> <p>この度、一般社団法人日本小児神経外科学会新理事に立候補させて頂きたいと存じます。これまで長い時間をかけて小児脳腫瘍治療・研究に携わって参りました。添付のような論文を公表することができました。主に germ cell tumor, medulloblastoma, ependymoma, pilocytic astrocytoma に関する論文です。Germ cell tumor に関しては、症例報告・東北大学での多数の症例を用いた後方視的検討・国内の多施設共同研究による研究結果を報告しております。Medulloblastoma に関しては SickKids の Michael Taylor 先生との共著が Nature を含め high impact journal に多数掲載されました。</p> <p>脳腫瘍学会の理事を創設当時から長期間にわたって務め、小児脳腫瘍ガイドライン作成の副委員長としてまとめるとともに、作成自体にも深く関わってきました。</p> <p>JCCG の脳腫瘍委員会では現在委員長として様々な問題解決・前向き試験実行・新規治療計画の開発に携わっております。</p> <p>年齢も 61 歳にまもなくになります。上述のように多くの経験をさせて頂きました。それとともに全体を見渡すこともできるようになったと思います。伊達先生・藤井先生という偉大な先輩の後を継いで、五味先生・山本哲哉先生とともに小児脳腫瘍領域の臨床・研究の発展に全力を注ぎたいと考えております。</p> <p>また若い脳神経外科医への教育も非常に重要です。この教育システムの構築にも関わっていきたいと思います。外科手技の教育はどんなに小児血液がん学会等内科・小児科領域の先生方が頑張っても不可能であり、小児神経外科学会が担う必要があります。昨今の状況を鑑みますと、手術ビデオのアーカイブを学会としてまとめて、学会会員がいつでもそれを見て勉強できるシステムを作ることは極めて有意義だと考えております。その仕事に関係したいと願っております。</p> <p>以上、私・隈部俊宏は一般社団法人日本小児神経外科学会の新理事に立候補させて頂きます。ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">推薦者（富永悌二、林 俊哲）</p>		

氏名 林 俊哲	所属 宮城県立こども病院脳神経外科	55 歳
---------	-------------------	------

抱負

日本小児神経外科学会理事に立候補するにあたり、抱負をのべさせていただきます。

私は東北大学脳神経外科で研鑽を積んだのち、2003年に宮城県立こども病院が開設されるとともに東北地方唯一の小児専門神経外科施設の科長として赴任し、以後東北地方の小児神経外科医療に従事してまいりました。小児神経外科医療は希少疾患である先天奇形や小児期特有の発症、病態や全身管理にたいする知識、経験が必須であり脳神経外科医療の中のサブスペシャリティとして未来を担う小児の医療を担当する極めて重要な分野と考えております。

近年、本学会にて様々な委員等に就任し、活動を行っていくにつれ、小児神経外科医療にたいする高い基礎知識、臨床技量をもっている神経外科医師、施設は地方においては未だ充足しておらず、少なくない患者が十分な専門的医療を受けられていないことに気づきました。さらに、このような状況は地方のみではなく、大都市圏においても必ずしも患者が容易に対応可能な専門医にアクセスできる環境が整っているとは言えません。私は脳神経外科専門医教育において小児神経外科領域の教育普及に尽力したいと考えております。

また、ともすると外科治療に重きがおかれる神経外科診療ではありますが、小児神経科医をはじめとした小児関連各科と診断や病態管理において密に連携するべきだとも考えております。私は小児神経学会の教育委員を務めている経験を活かして、脳神経外科にとどまらない診療連携を構築したいと考えております。

さらに、私は小児神経外科医療においては小児期の医療のみならず、AYA世代やそれ以降の移行期医療に大きな課題があると考えており、小児期以降にどのような問題があるのかを明らかとし、それを解決するために是非尽力したいと考えております。

これまで私は個人的な努力により地方における小児神経外科医療の底上げ、発展に努力してまいりました。この度立場を一步進めて、本学会理事となり我が国、ひいては世界の指導的立場にある小児神経外科医と共に手を携えて様々な課題に立ち向かうことが最も重要だと考えました。

私は小児神経外科に関連する学術的課題、社会的問題に対して決してひるむことなく真摯に粘り強く対応し、必ずや解決する意思を持っております。小児神経外科領域の教育、研究、臨床に貢献し、未来のあるこどもたちの将来を良きものとするために尽力したいと強く思っております。また、その過程においては人格的に誠実で公平であり、多様性に対して寛容であり、一人一人の価値観を尊重し、仕事にたいし真摯にとりくむことを約束いたします。

本学会理事に選考いただきましたら、学会の発展に大いに貢献するために努力を惜しまず、責務を全うできるよう最大限の努力いたします。

本学会理事に選考いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

推薦者（冨永悌二、隈部俊宏）

氏名 加藤 美穂子	所属 あいち小児保健総合医療センター脳神経外科	54 歳
<p>抱負</p> <p>この度、第4期役員選出にあたり理事に立候補させていただきます。私は名古屋大学大学院在学中の1999年に脳神経外科専門医を取得し、2004年から小児神経外科を専門として診療に携わって参りました。本会では広報委員（2012-17）、教育委員（2017-19）保険診療委員/医療安全委員（2020-）として各委員会の取り組みに関わっております。これら委員会活動において、諸先輩方にご指導いただき、多くのことを学ばせていただきました。その御恩を忘れず、今後は脳神経外科学の重要なサブスペシャリティーである小児神経外科学の魅力若くは若い脳神経外科医に伝え、小児神経外科疾患を抱える子どもたちのためにできることを探し、我が国の小児神経外科学発展のため、私にできることを考えて参りたいと存じます。</p> <p>まず、小児神経外科の魅力を伝えるためには専攻医訓練中に小児神経外科症例を経験する機会が必要です。さらに、専攻医訓練中に小児神経外科学を学ぶ機会が必要です。急速に普及したオンラインカンファレンスなどを利用し、専攻医が小児神経外科疾患の議論に参加できる機会を創生することで小児神経外科への興味を引き出せると考えます。</p> <p>Abusive Head Trauma (AHT)は小児神経外科学会が関連学会とともに中心になって取り組むべき問題と認識しています。頭部外傷治療を多く経験している脳神経外科医が“小児”の観点を加えて診療にあたることで、「小児頭部外傷」の正確な受傷機転の検討やAHTで著しく神経学的予後が不良である理由の解明などが可能になると考えます。小児頭部外傷に関する知見を正確に発信したいと考えております。</p> <p>小児神経外科に携わる医師は、脳神経外科医であり、かつ小児科医のような「子どもの代弁者」であることが必要です。子ども一人一人の権利を尊重し、幼くとも、あるいは意思表示に関わる障がいを抱えていようとも、その人格を意識した診療が実践できる脳神経外科医を育成することが大切です。「子どもの権利に関する啓蒙」、脳神経外科関連学会の中で、それを最も強く発信できるのは本会であると考えます。</p> <p>日本小児神経外科学会発展のために、精一杯、力を尽くす所存でございます。評議員の皆様のご支援、ご支持を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">推薦者（下川尚子、赤井卓也）</p>		

氏名 吉藤 和久	所属 北海道立子ども総合医療・療育センター脳神経外科	54 歳
<p>抱負</p> <p>私はこの 4 年間広報委員会の委員長として活動するチャンスをいただきました。担当理事と委員からご支援を受け、委員会外からも執筆やワーキンググループ参加のご協力に恵まれ、ホームページを刷新してことができました。本学会理念にもありますが、会員相互の連絡はもちろん、外部との交流や社会への啓発も重要と考え、一般市民ならびに他診療科医師へ向けた疾患情報ページを作成、海外向け英文紹介ページも用意しました。研修医へ向けては、学問以外の情報にも必要性を感じ、小児神経外科認定医が語る情報ページを開設しました。今回、さらに広い視野を持って、小児神経外科医療の社会への啓発や、医療の担い手を確保することにぜひ携わりたいと願い、理事へ立候補させていただく所存です。</p> <p>小児医療の提供には、教育研究機関である大学病院、成人医療施設と併存型、単独小児病院など異なる形態があり、対象疾患や移行期医療への対応にそれぞれ特徴があると認識しています。医療圏によっても小児人口、認定医数などに特色があると推察されます。私は地方の医療圏（北海道）の単独小児病院に 15 年間勤務しています。このような立場、目線からも、本学会活動へ協力できる部分があるのではないかと考えています。</p> <p style="text-align: right;">推薦者（下川尚子、朴 永銖）</p>		

氏名 河村 淳史	所属 兵庫県立こども病院脳神経外科	57 歳
<p>抱負</p> <p>この度、日本小児神経外科学会理事に立候補した兵庫県立こども病院の河村淳史です。自院では診療科長として日常診療及び指導を、また管理職小児がん医療センター次長として、小児がん拠点病院である小児がん医療センターの運営、緩和ケア委員会、医療安全委員会、移行期医療委員会に加え、陽子線治療を担当、2017年の神戸陽子線センター開設以来その運営の一翼を担っています。</p> <p>学会における活動として、学術研究委員（脊髄髄膜瘤疾患レジストリー小委員会、脊髄髄膜瘤ガイドライン作成小委員会）、保険診療委員として新規診療報酬検討、編集委員会として年数編の査読、教育委員を経て2021、2022、2023年と小児神経外科教育セミナー脳脊髄腫瘍を担当、また学会ホームページ『一般の方への』脳腫瘍、髄芽腫のページ担当などに携わって参りました。その他の学会活動として、日本放射線腫瘍学会ガイドライン作成委員として小児・AYA世代の腫瘍に対する陽子線治療診療ガイドライン作成にも携わりました。小児科との連携として小児血液・がん学会脳腫瘍委員（神経心理合併症ワーキンググループ、新規治療開発小委員会、また後期試験小委員会ではオブザーバーとして活動）、小児脳腫瘍カンファレンス世話人、近畿小児血液・がん研究会世話人も務めています。日本脳腫瘍学会との連携では日本脳腫瘍学会ガイドライン『脳腫瘍診療ガイドライン』小児脳腫瘍編髄芽腫の作成にも携わる機会を得ました。</p> <p>基幹施設である神戸大学脳神経外科教室との関係は非常に密であり、臨床教授として4回生、5回生の小児脳神経外科講義を担当、6回生の臨床実習受け入れも担っています。また専門医研修プログラムの連携施設として常時、一年に2名ずつ計4名の専攻医の派遣を受け、専門医試験に向けた臨床指導を行っています。篠山隆司教授からの支援も厚く、2017年の学術集会開催の実績もあることから、理事となった暁には神戸で3回目の学術集会を開催できるよう努力する所存です。国際経験としてはシカゴ小児病院 Tomita 教授、シアトル小児病院 Ojemann 教授に師事し、米国での診療を学ぶ機会を得ていますので国際的活動も視野に入れていきます。また当院から本学会日韓交換留学プログラムにスタッフを派遣するなど、当施設スタッフの学会活動も大いに推奨・支援してきました。</p> <p>これらの経験を踏まえ、理事になりましたら少子化が進み、症例数が減少する現代で自分の経験を元に若手脳神経外科医に最新の小児神経外科の知識を広め、技術を伝えていくことに務めて参りたいと存じます。小児神経外科領域は専門外の先生にとって馴染みが薄い面がございます。このため臨床データの解析、ガイドラインの作成などを経て、臨床的根拠、患者の価値観、医師の熟練性を統合して科学的根拠に基づく明快な小児神経外科医療の普及は急務と考えております。小児科をはじめ他分野や行政と連携、情報を共有して、当学会の臨床診療力、教育力、研究力がより充実するよう努めて参りたいと存じます。どうか小児神経外科学会の発展に更に貢献する機会を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">推薦者（山本哲哉、栗原 淳）</p>		

氏名 荻原 英樹	所属 国立成育医療研究センター脳神経外科	50 歳
<p>抱負</p> <p>シカゴ子供記念病院と国立成育医療研究センターでの小児脳神経外科臨床の経験を活かし、後進の先生の人材育成に取り組んでいきたいと考えております。小児神経外科では脳神経外科の subspeciality の中でも特に多様性に富む疾患群への対応が迫られますが、その核となる考え方・手術法を臨床・学会活動を通して伝えていきたいと思っております。</p> <p>小児神経外科臨床においては、稀少な疾患、特異的な経過を辿る症例も少なからずあり、地域の小児臨床に携わる者同士の情報交換・研究会が、臨床技術の向上・発展に寄与すると考えられます。関東地区においてもこのような会の発足を目指したいと思っております。</p> <p>これまでの教育委員会の活動は、教育セミナーを通しての主に一般脳神経外科の先生向けでしたが、今後は本学会認定医向けのセミナーの設立を行い、本邦の小児神経外科のレベルの向上に寄与したいと考えております。</p> <p>また、編集委員として、機関誌「小児の脳神経」の論文査読の職務を継続し、その発展に寄与したいと考えております。</p> <p>海外への発信に関しては、単施設からの発表のみでなく、学会を通じた多施設共同研究の推進を行い、より影響力の高い情報発信を行っていききたいと考えております。</p> <p>ISPN への若い先生の参加を促すことにより、国外施設との情報交換の重要性を、後進の先生にも伝えていきたいと考えております。</p> <p>脊髄髄膜瘤に対する胎児治療や、二分脊椎に対する再生治療につながる translational research、脊髄脂肪腫の遺伝子解析など、新規の治療とそれに向けた研究を行っていききたいと考えております。</p> <p>以上の活動を通して、今後の小児神経外科学会の発展に寄与したいと考えます。</p> <p style="text-align: right;">推薦者（岩間 亨、齊藤延人）</p>		

氏名 井原 哲	所属 東京都立小児総合医療センター脳神経外科	50 歳
---------	------------------------	------

抱負

この度、一般社団法人日本小児神経外科学会理事に立候補することを決意いたしました。私は、2003年に脳神経外科専門医を取得後、2005年より国立成育医療センターで研鑽する機会を得て師田信人先生のご指導のもと本格的に小児神経外科の道に進みました。2009年より筑波大学に勤務し、松村明先生、山本哲哉先生のご指導のもと、茨城県立こども病院小児脳神経外科の立ち上げにも携わる機会を得ました。2013年からは現職場である東京都立小児総合医療センターにて診療科責任者を務めております。

本会には、1999年に入会し、2013年より学術委員（旧評議員）、2018年より評議員として学会活動に従事してまいりました。委員会活動では、2009～2016年は広報委員会委員、2017～2018年には広報委員会委員長を拝命し、会員および一般向けの広報に従事いたしました。2019年からは総務委員会委員長を拝命し栗原 淳理事のもとで2期4年間学会の様々な運營業務に従事いたしました。また2017年から「小児の脳神経」編集委員、2020年から学術委員会シャントレジストリ小委員会、虐待関連小委員会にも関わらせていただいております。

本学会が抱える喫緊かつ最大の問題は会員数の減少傾向です。小児神経外科は非常に魅力的な分野ですが、その魅力に接する機会を持っていないまま研修を終えてしまう専攻医も少なくありません。多くの専攻医研修指導の経験、広報委員会での経験を活かし、専攻医世代に小児神経外科の魅力を伝える活動、そして研修機会の組織的な確保に尽力したいと考えております。また新規会員が、本学会での学術活動へのモチベーションを抱くようになるには、そのロールモデルたる学術委員の活躍が欠かせません。学術委員は、診療経験や学術活動歴の厳正な審査体制がすでに確立しております。多くの学術委員に各種委員会活動などを通じて十分な活躍の場を提供できるような体制の整備、そして将来的には学会指導医としての再編整備も検討に値するのではないかと考えております。

日本小児神経外科学会の立ち位置として、日本脳神経外科学会の分科会としてのいわば縦軸と日本小児科学会や日本小児神経学会、他の小児外科系学会との協調関係という横軸も重要です。私は長年の小児病院での勤務経験および日本小児神経学会での各種委員会活動により、小児に関わる様々な診療科学会をリードする先生方に多くの知己を得ることができました。理事として学会の運営に関わる機会をいただけたら、横軸の活動において貢献できるものと確信しております。何卒宜しくお願い申し上げます。

推薦者（山本哲哉、栗原 淳）

氏名 西山 健一	所属 新潟県厚生連新潟医療センター脳神経外科	57 歳
<p>抱負</p> <p>このたび日本小児神経外科学会（JSPN）理事に立候補します西山健一です。1998 年から 25 年間、本会会員として国内外の小児脳神経外科医療に携わって参りました。その経験を礎に、本会の更なる発展に寄与したく思っております。</p> <p>本会に求められる課題は山積しています。特に時代の変化で露わになっている国際化、少子化への対応に私は尽力したく思っております。</p> <p>前者におきましては、2008 年に独国でクリニカルフェローを務めて以降、International society of pediatric neurosurgery(ISPN) の Liaison committee や、International federation of neuroendoscopy (IFNE)の Secretary を務め、世界各地で講演や講習会講師の任に就くなどの豊富な国際経験を積んでおります。この間、各国の小児脳神経外科医と親睦を深め、世界中に強固なコネクションを作り上げました。今後求められる国際共同研究はもとより、世界における JSPN のプレゼンスを高めるにあたって、このコネクションは代えがたい貴重なものと自負しているところです。</p> <p>一方少子化につきましては、小児脳神経外科医療の均てん化が不可欠と考えております。過去 10 年間、地方都市で地域医療にも携わり、まだまだ本分野の特殊性が患児に還元されない実態を目の当たりにしてきました。少ない子供たちをさらに大切にする医療。それは地域格差を失くし、全ての児に等しく医療の恩恵が与えられることに他なりません。地域包括医療システムのなかに取り込む仕組みづくり、ICT 技術の活用などをその方策として前向きに取り組むたく思っております。過去 2 年間に渡り新潟市西区自治協議委員として、行政と協働してきたキャリアを生かしていく所存です。</p> <p>このような問題の解消と本会の発展とともに、会員そして患児にとってさらに意義のある会にするため理事に立候補致します。</p> <p style="text-align: right;">推薦者（下地一彰、三輪 点）</p>		